

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

国からの将来課金

学校法人廣池学園麗澤中学校 第三学年 鈴木 優希奈

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で提供されています。」

これは、私が小学一年生の頃から六年生まで使ってきた全ての教科書に書かれています。小学校低学年の頃は何も考えずに無償の教科書を使っていました。しかし、高学年になり税金について学んでいくうちに、少しずつこの文章の意味を感じるようになりました。教科書は、よく読むと、この文だけではなく、全生徒の色覚特性に適応するデザイン、再生紙の使用など、様々な工夫がされています。

少し前までは、両親の給料から税金が引かれていることにすら気づきませんでした。しかし実際に両親に質問をして話していく中で日本では、一人あたりのお給料から、十パーセントから三十パーセント、多くて四十パーセントを超えるほど税金はひかれていると知りました。しかし、これらの税金のうち、十八パーセントほどは子供達の教育費にあてられていました。これを知った今、納税という仕組みにより、私達は平等に分け隔てなく学ぶことができていると改めて感じました。更に調べていくと、教育費の内分けのうち、四十二パーセントは教材の無償支給にあてられていました。そこで、税金で教材費を払うことによって、より多くの人が平等に教育を受けられるという事実にも、とても感動しました。

少子高齢化が進んで、税金の中でも年金へ渡る割合が年々多くなってきました。しかしそれらが増えたからといって、教育費の割合を減らすわけではなく、このまま教科書が無償であり続けてほしいと思います。そして、子供の人数が減ってきて、教育費が余るような事態になった場合は税金を使って給食費をもっと安く、平等な環境で子供達が学ぶことができるようになったらいいなと思いました。税金を、教育費や教材費にあてて、子供を持つ俺の負担を軽くすることはすごく素晴らしいことだと感じました。しかし、まだ今の状況でもお金のことで十分に学校に行けない人がいるならば、給食の無償化を提案します。

私は、働いている社会人の給料から税金が引かれていると知り、税金の行方や使い道がすごく気になりました。税金のうち、約五分の一は教育費にあてられていると知り、素晴らしい制度だなと感じました。しかし、少子高齢化でもし税率があがったときに、学校に行くのが難しくならないようにしたい。だからこれからも学ぶことに意欲がある子供達に少しでも多くの税金を当てて欲しいと思いました。これらの税金は、将来を担う私達への国からの課金だと思いました。